

「ゼロから考える少子化対策PT」 第6回会合	資料2
有識者略歴・各団体活動概要	

有識者略歴・各団体活動概要

阿部 彩（あべ あや）氏

国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第2室長

マサチューセッツ工科大学卒業。タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士号・博士号取得。国際連合（インド勤務）海外経済協力基金を経て、1999年より、国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第2室長に就任、現在に至る。2006年からお茶の水女子大学（社会保障論）07年より日本女子大学（社会政策）の非常勤講師。厚生労働省社会・援護局地域福祉課「ホームレスの実態に関する全国調査検討会」委員（2006年）、内閣府男女共同参画会議監視・影響調査専門調査会「生活困難を抱える男女に関する検討会」メンバー（2008年）などを務める。研究テーマは、貧困、社会的排除、社会保障、公的扶助。『生活保護の経済分析』（共著、東京大学出版会、2008年）にて第51回日経・経済図書文化賞を受賞。他の著書に、『子育て世帯の社会保障』（共著、東京大学出版会）、『経済とリスク（リスク学入門）』（共著、岩波書店）、『社会的排除／包摂と社会政策』（共著、法律文化社）『子どもの貧困 - 日本の不公平を考える -』（岩波新書）など。

財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会

各都道府県及び指定都市に所在する母子福祉団体の連絡協議機関として、全国の母子家庭及び寡婦の福祉の増進を図ることを目的とした設立された団体で、加盟団体数は56団体です。

戦後、未亡人となられた方々が各地で組織を設立し、その連絡協議機関として昭和25年に全国未亡人団体協議会が結成されました。

そして、「わが幸はわが手で」のモットーのもと、互いに慰め合い、励まし合い、助け合って、共に進んでまいりました。

母子家庭の生活の安定にかかせない児童扶養手当をはじめ、母子家庭のための様々な制度が整った背景には、多くの先輩方の力強い団結と並々ならぬ活動の歴史があります。

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

シングルマザーが子どもとともに生き生きと暮らせるように活動する当事者団体。情報提供・相談活動、行政・社会への提言活動、自助活動を行っています。

1980年児童扶養手当の切捨てを許さない連絡会として発足、名称を現在のものに変え、2001年NPO法人取得。編著に『母子家庭にカンパイ！』『シングルマザーに乾杯！』『シングルマザーのあなたへ 暮らしを乗り切る53の方法』ほかがある。反貧困ネットに協力。

NPO法人W i n k (ウイंक)

家庭、地域及び社会における相互扶助ネットワークを推進する活動を目的とし、以下の3つの理念を柱として活動を行っております。

1. 社会教育に関わる活動として大人世代の責任の全う
2. ひとり親家庭におけるさまざまな支援活動
3. 子どもの健全育成に関わる活動

基本理念の実現を目指し、インターネットを使った情報発信サービスやカウンセリング事業、就労支援、住宅支援、調査出版事業などを行っております。

離婚後の親子関係修復の啓発(4月19日を養育費の日記念日とする)についての活動、母子家庭の住宅支援として「MOMMY + ハウス」の運営が注目され、マスコミにも多く取り上げられています。

NPO 法人ウイंकサイト：<http://www.npo-wink.org/>

ハンド・イン・ハンドの会

1979年3月より離婚に関する知識や情報を提供する公開講座「ニコニコ離婚講座」を開催。その後離婚女性たちのネットワークとして「ハンド・イン・ハンドの会」を1981年3月に発足。

離婚を人生の中の一つの出来事として捉え、社会の偏見や差別に流されることなく、生きていく、また、離婚を単なる個人や家族の問題ではなく、社会問題として捉え、そのために情報交換をし、法律や制度を変えるための運動も行っている。

全国に会員がおり、東京、大阪では定期的に会合や研修合宿を行い交流し、情報交換している。会報を隔月に発行している。